

山崎さん母校に

七月八日、微音堂にて山崎直子宇宙飛行士O.F.K返 還記念講演会がおこなわれた。



本校の校旗を持つ山崎直子宇宙飛行士

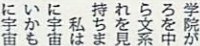
微音堂は在校生、保護者、来賓で満たされた。山崎さんの入場を今がかと会場全体が待ちわびていき、三年生矢野様と三年生のアナウンサーで満場の拍手の中、山崎直子さんがステージに登壇した。山崎さんは彼女の正装である鮮やかなブルーのスーツの訓練服に身を包み、会場の拍手を受けるように微笑んで、自らが執行部長の二年一村先輩さんが挨拶を終え、次にO.F.Kの返還が行われた。O.F.KとはOfficial Flight Kit(公式飛行記念品)の略で、宇宙飛行士に関係する機内記念品がスペースシャトルに持ち込まれ、宇宙を飛行した後には返還されるものである。本校からO.F.Kとしてミニ二校旗を委託した。その校旗とパネルの二年玉留治さん、大森実沙さん、宗竹陽さんが山崎さんから受け取った。

その後、新聞部から新聞「お茶の水」の山崎さん特集号、大自然科学部からは本校よりの記念品としてスペースシャトルの打ち上げ応援会で写真が入ったデジタルフォトブックが山崎さんに贈呈された。壇上上がった生徒たちは憧れの先輩である山崎さんに握手を求め、山崎さんもそれに笑顔で応じた。

第一部はJAXAに所属している山崎さんを含む四人の卒業生、松本晴子さん(昭和五九年卒)、谷瑞希さん(平成六年卒)と物理担当教諭の村井利行先生より「宇宙へのあがれ」と題したミニセッションが行われた。四人が宇宙に関わる仕事に就いた経緯は様々で、宇宙開発と一口で言っても様々な役割があり、最後に村井先生の手順の飛行機のパラメータ(訓練で搭載)が村井先生より山崎さんに贈られた。ここでは積極的に手が振り、司令の矢野さんにも一苦勞の機子であった。質問は様々で、「宇宙飛行にも何をしたらいいか?」「宇宙に行くようになったらどんな希望は何地球へのメロッド?」「どの宇宙開発のプロジェクト?」「お茶高で一番印象に残っていること?」「お茶高で一番頑張ったこと?」「お茶高で学んだことを生かして頑張っていますか?」「お茶高ではどんなことを学んでいますか?」「お茶高で学んだことを生かして頑張っていますか?」「お茶高で学んだことを生かして頑張っていますか?」

命何かをやることは楽しいことだとか、お茶高もそれを進めようという所だったので楽しかった」と話された。

山崎さんを含む四人の卒業生、松本晴子さん(昭和五九年卒)、谷瑞希さん(平成六年卒)と物理担当教諭の村井利行先生より「宇宙へのあがれ」と題したミニセッションが行われた。四人が宇宙に関わる仕事に就いた経緯は様々で、宇宙開発と一口で言っても様々な役割があり、最後に村井先生の手順の飛行機のパラメータ(訓練で搭載)が村井先生より山崎さんに贈られた。



認定証とミニ二校旗

先輩と宇宙 —インタビュー—

今回の講演会にいらしたお茶高の卒業生であり、現在はJAXAに勤務されている三人にインタビューを行った



生徒の質問に答える山崎宇宙飛行士

山崎直子さん

どんなお仕事されているのですか?

JAXAは国が決めた宇宙に関するプロジェクトに取り組む研究・開発機関です。実際に物を発射するのはメーカさんで、JAXAは取りまとめるのが仕事です。日本の宇宙開発競争に有利にするために、JAXAは取組みを強化しています。現在私は、その中でも産業連携センターというところに勤めています。宇宙開発はレベルが高いが研究開発向きなもので売れず、という批判がされている。企業と協力して国際競争力のあるロケットや人工衛星を作る努力をするように活動するのが産業連携センターの仕事です。

松本晴子さん

普通医学の医師の仕事は?

私は普通の臨床医の仕事もしています。フライトサージャンの仕事は海外出張が多いです。中々大変な仕事です。ロケット、カナダ、アメリカ、ヨーロッパ、ロシアなど様々な国の医師と共同研究やお話をしたり、国によって違う医療基準の調整をします。

谷瑞希さん

JAXAは独立行政法人なので法律、宇宙法は作れません。私はJAXAで、文科省、国会に提出する法案を作りたいと思ってます。文科省に入ると宇宙について仕事ができるのは限らないので、文科省所管の独立行政法人JAXAに就職しました。ロケットや人工衛星などに関する技術を実際に扱っている機関で法律の実務を身につけて、法律を作るにあたりサポートができるようにしたいです。

谷川晴子さん

宇宙法の開発は?

JAXAは独立行政法人なので法律、宇宙法は作れません。私はJAXAで、文科省、国会に提出する法案を作りたいと思ってます。文科省に入ると宇宙について仕事ができるのは限らないので、文科省所管の独立行政法人JAXAに就職しました。ロケットや人工衛星などに関する技術を実際に扱っている機関で法律の実務を身につけて、法律を作るにあたりサポートができるようにしたいです。

訂正お詫言

昨年九月二日「お茶の水」第六九号(新聞「お茶の水」)「川島里佳さん」ではなく「大山知里さん」への取材でした。また、前号「七月一面の大山知里さん」は大山知里さんではなく、山崎直子さんでした。訂正して深くお詫言申し上げます。



生徒から花束とジャガイモを受け取り思わず笑顔に左から、谷さん、杉田さん、山崎さん、松本さん

井上 山崎直子宇宙飛行士が「お茶の水」の卒業生と合同で講演会を行いました。山崎さんは「お茶の水」で学んだことが、今の仕事に生かされています。卒業生からは、山崎さんに感謝の言葉を伝え、握手を求めました。山崎さんは笑顔で応じました。講演会は大成功に終わりました。山崎さんは「お茶の水」で学んだことが、今の仕事に生かされています。卒業生からは、山崎さんに感謝の言葉を伝え、握手を求めました。山崎さんは笑顔で応じました。講演会は大成功に終わりました。